

■研究ノート

寺院のおみくじに関する意識調査

松宮 朝*

Research on Attitude Survey of Omikuji in Temples

MATSUMIYA Ashita

キーワード：寺院, おみくじ, 占い

1. はじめに

愛知県立大学で長く教鞭をとってこられた故大野出氏(2017年10月永眠)によるおみくじに関する調査研究の資料が、2021年12月に発見された。これらの資料は、文部科学省科研費の研究助成を受けた「社会調査法に基づく寺社における御籤・神籤に関する思想史研究を中心とした総合的研究」の質問紙調査の一部であることが判明した。

大野氏は、おみくじに関する研究を『江戸の占い』(大野, 2004), 『元三大師御籤本の研究』(大野, 2009)などにまとめている¹⁾。筆者は、いくつかの共同研究(福沢編著, 2008; 松宮・大野, 2009)で、大野氏のおみくじ調査の分析にかかわってきた。その一部である神社のおみくじに関する意識調査は、松宮・大野(2009)において分析結果の中間報告を行い、その後実施した寺院のおみくじ調査を進め、比較分析を行うことが予告されていた(大野, 2009: 164-5)。しかし、この研究は、準備作業と質問紙調査の送付・回収作業が進められていたなかで、大野氏の急な逝去によって中断していた。今回発見された調査研究の資料は、この質問紙調査のデータである。

本稿は、残された寺院調査のデータの集計・分析を行うものである。本来であれば、大野氏が手掛けてきた思想史研究に基づく視座による分析を行うべきものであることは承知している。しかし、ここでは、後の研究資料として活用されることを最優先の目的として、データの単純集計と自由回答の分類をもとにした分析結果を示すことにしたい。

2. コロナ禍でおみくじをひくことの意味

調査データの分析を行う前に、おみくじをめぐる現代的な意味について考えておこう。ここでは、神社、寺院で提供されているおみくじに限定するが、大野氏のおみくじに関する研究は、詳細な思想史的視点に基づく分析を行うものであった。と同時に、その現代的意義、たとえば占いとしてのおみくじの倫理性、教訓性、そしてその社会的問題についても考察を進めていた(大野, 2009: 122)。おみくじの歴史的・思想史的な意義はもちろんだが、おみくじがどのように活用されているのか、現代に生きる人びとにとっての意味に対しても、強い関心を向けていたのだ。このような流れから、大野氏はおみくじをひくという行為がどのような文脈を持つか、お

* 愛知県立大学教育福祉学部

みくじの社会的位置づけがどのようなものかという、社会学的関心に基づくテーマに目を向けていた。こうした大野氏の関心に合わせる形で、社会学を専門とする筆者は、おみくじに関する共同研究にかかわったのである。

さて、筆者は、大野氏が残したデータが発見された時期に、コロナ禍の人びとの行動、特に地域社会での「集まり」を中心とした調査研究を進めていた。調査で立ち寄ったある神社²⁾で、次のような案内を目にした。

コロナ禍の為、おみくじを変更しました

- ①正面でお賽銭を入れたら左側にご移動ください
- ②みくじ箱より一つ取りましたら、すぐにご移動ください
- ③すいている場所でお読みください
- ④読まれたおみくじは、しばらくにお持ち帰り下さい

コロナ禍で外出、「三密」の危険がある集まりが制限されるなかで、おみくじをひく場においても、このような行動制限がされていることに気づかされた。そして、こうした状況のなかでも、おみくじをひくという行為が持続してきたことの意味についてあらためて考えさせられることとなった。おみくじへの関心の持続は、いくつかの調査結果からも明らかにされている。1973年より5年ごとに実施されているNHK放送文化研究所による調査には、「おみくじ・占い」に関する調査項目がある。この調査項目のひとつ「この一、二年のおみくじ・占いの経験」の回答率を見ると、1973年に19%で、1978年に23%となった後、2018年調査でも24%とほぼ変化がなかった³⁾。コロナ禍での調査は2023年に実施されるため、その実態については比較検討することができない。しかし、東京都で実施された2006年と2020年の「生活意識」調査では、おみくじを引く傾向が増加傾向にあることが指摘されている（荒川、2021：4-6）。

では、おみくじはどのような意識のもとにひかれ、どのようにとらえられているのだろうか。このような関心に基づくおみくじの受容について、松宮・大野（2009）は、愛知県内の小学校、中学校、高校、大学に通う生徒・学生の意識調査をもとに検討してきた。これらの研究は主として受容する側から見た検討であったが、大野氏と

の共同研究の関心は、受け手の分析から、送り手の側の意識に向けられることとなった。こうした、研究目的のもとで、おみくじを提供する神社と寺院の意識を把握することを目的に、全国規模の郵送での質問紙調査を実施した。次に、この調査の現段階での達成状況を概観しておきたい。

3. 神社調査から

まず、これまでの共同研究のひとつ、神社におけるおみくじへの意識に対する調査研究から見よう。神社本庁教学研究所監修（2004）では、神社本庁の公式見解として、①「おみくじ」を単に吉兆判断の材料とするのではなく、今後の生活指針としていくこと、②射幸心を煽らないという戒めなどが書かれている。前者はおみくじを受容する側に対するものであるが、後者については、おみくじを提供する神社側への言及がなされたものと見ることができる（大野、2012）。

では、おみくじを提供する側は、どのような意識・考えのもとでおみくじを設置しているのだろうか。おみくじに関する研究としては、島（1995, 1999）、鍋木（2017）などが、おみくじ吉と凶の比率などを丹念に分析している。しかし、実際にどのような考えや意識のもとでおみくじが提供されているのかという点については、これまであまり研究の蓄積がない。そこで、おみくじを提供している神社を対象に、おみくじに関する実態、およびおみくじに対する意識調査を実施した。ここで対象としたのは、『全国著名神社名鑑』、『神社名鑑』から抽出した2217の神社である。日本にあるすべての神社を網羅したわけではないが、神社に関するほぼ偏りのないサンプルであると考えられる。

調査は郵送法で、2008年3～4月に実施した。このうち宛先不明で返送されたものが8通で、913の神社から回答をいたし、有効回収率は41.3%であった。この調査結果については、概要を松宮・大野（2009）で提示したため、ここではおみくじを提供する神社の意識・考えについて見ていきたい。「貴社のおみくじに関する神社としてのお考え等がございましたらお書き下さい」という形でお尋ねし、397の自由回答を得ている。この自由回答

について、代表的なものを中心に分類した上で、その概要を示しておこう⁴⁾。

①おみくじはどのような意味を持っているのか？

神社にとってのおみくじの意味に関する回答としては、神道強化や、広報的な機能、そして、数としては少ないが、収入のためという現実的な回答もあった。参拝者と神社、氏子と神社をつなぐものとして重要な機能を果たすとする見解、積極的に参拝者のニーズにこたえるおみくじを用意するという意見も多く見られた。

②おみくじの効果について

では、おみくじの効果についてはどのようにとらえられているのだろうか。回答として最も多かったのが、おみくじが神から与えられた生活指針としてとらえるべきとする、本質的なとらえ方である。ただし、このような本質的なおみくじに対する位置づけだけでなく、「楽しみ」として消費するようなおみくじ受容する気持ちに対しても肯定的にとらえる見解も見られた。

③おみくじは占いか？

おみくじは占いとしてとらえられているのだろうか。「おみくじは占い的一种」という考えがある一方で、占いであることを否定する見解も見られた。全体として、単に受動的におみくじの内容をとらえるのではなく、おみくじを引く人の側の主体的な働きかけが要請されている。おみくじを提供する側の論理を考える上で、興味深い見解である。

④「凶」・「大凶」をめぐって

自由回答の結果からは、吉凶判断については、それほど重視されているわけではないと思われる。おみくじにはつきものの吉凶判断であるが、特に「凶」、「大凶」については、かなり否定的な見解が見られた。

こうした神社のおみくじに対する意識と比較して、寺院ではどのような意識・考えが認められるのか。次に、

2021年12月に発見された寺院のデータをもとに、その概要を見ておくことにしたい。

4. 寺院調査から

今回発見された寺院の調査は、2010年3月から2011年3月に郵送調査により実施したものである⁵⁾。主としておみくじを提供している天台宗、曹洞宗、臨済宗の寺院をリストアップし⁶⁾、753の寺院から回答を得た。

表1 おみくじの有無

	度数	%
ある	283	37.6%
なし	461	61.2%
無回答	9	1.2%
合計	753	100.0%

表2 おみくじの年代

	度数	%
江戸時代以前	55	19.4%
明治期	28	9.9%
大正期	20	7.1%
昭和初期	37	13.1%
昭和中期以降	126	44.5%
無回答	17	6.0%
合計	283	100.0%

まず、おみくじの有無については、「あり」が37.6%、「なし」が61.2%となっている（表1）。神社調査では、「あり」が88.5%となっており（松宮・大野，2009）、寺院の方がおみくじの設置が相対的に少ないとみることができる。自由回答からは、おみくじを置いていない理由として、「檀家寺であるため」という回答が58あったことから、寺院の特性ゆえに、おみくじの必要性がないというのが最大の要因と考えられる。その他の自由回答としては、「手間がかかる」8、「参拝者が少ない」8、「神社のイメージがある」5となっていた。今後の設置予定がないという回答も21であった。逆に、参加者の要望があるため設置を検討しているという回答は19となっていた。

おみくじがつくられた年代としては、「昭和中期以降」が44.5%と圧倒的に多い（表2）。神社調査では、「昭和

中期以降」という回答が64.0%であり、寺院の方が相対的に古い時代のものがあると言える。

次に、おみくじを提供する寺院の意識・考えについて見ていきたい。「貴寺院のおみくじに関するお考え等がございましたらお書き下さい。」という形でお尋ねした自由回答の分析結果である。調査では調査への疑問や要望を含め、414の自由回答（そのうち「特になし」といった回答は81）を得ている。

これらの自由回答については、代表的なものを中心に分類した上で、典型的な例、代表的なパターンを紹介したい。なお、カッコ内の数字は関連する回答の数を示したものである。

●「指針」(35)

- ・自分自身が迷った時に背中を押してくれると思います。又、不思議とその迷いに合った籤が出ます。ある無しの世界以外の信じるという事を学ぶ機会にもなると思います。
- ・より良い生活をするための指針。
- ・おみくじは生きるうえでの指針になるものと考えます。
- ・現代人にわかりやすく、どの方向に進むべきか、しっかりした心がまえでおみくじをいただけるようにしたい。例えば、結婚、就職、リフォーム→いつすべきか自信を持って進めるように、おみくじに決定してほしい。
- ・仏縁に触れ自己の人生の一助になるなら良い事である。非論理的非科学的に日本人古来の習慣、知恵を否定する風潮は好ましくない。
- ・私は元三大師堂で得度し、小僧修行して自坊にもおみくじを置いてます。物事に迷った時、決めかねた時は必ずおみくじによって助かって来たので信者さんにも御相談等必ずおみくじで安心して載せて居ります。
- ・ただおみくじを引くのではなく人生の岐路に道を迷った時にひかせて頂いています。お陰で信者さんには大変喜んで頂いております。
- ・人生の進路に対し、信者の方が悩める時一つの方向を示し、参考我拝とすることは、大切な意味を持つものと思っている。
- ・住職が思案に呉れる時はおみくじを頂きます。
- ・おみくじは、自らの来しかたをかへりみる機会をあたへてくれます。「佛教とは無関係である」云々等の意見は考慮するに値しないと思ひます。忙しい日常ではなかなか得られない貴重な機会に接したことが重要なのだと考へます。
- ・おみくじを引いて物事の決断を下すというト占の思想は、即ち「天意を以て決着をつける」という事なので、可とします。
- ・引く方の気持ちができるだけ明るいほうへ向うために或いは、定まった方向へ気持ちを固めるために有効だと思っています。
- ・右か左か、どちらかわからない時、どっちでもよい時、おみくじは効果があると思います。おみくじにより決めます。悩み、お守の多い現代社会に於て人々に安心感を抱かせます。結婚の場合もその一つ。
- ・おみくじによって良い方向に向かえば宜しいかと思ひます。
- ・若い人がおみくじに関心を持つのは、心のどこかに指針となるものを得たいという思いがあるからでしょう。
- ・現在は混迷の時代です。近年の科学技術文明の発展により、人々は物質的繁栄を享受しながらも、精神的な悩みを抱えながら生きています。このような時に今日の社会の痛恨に有効と考えられる、東洋の教え、仏教の文化の表現であるおみくじは大切なものの一つであると考えられる。
- ・人間の喜怒哀楽や不安の指標となる場合がある。
- ・生活の指針の一切となれば幸いと思う。
- ・甲と乙の二者択一の時に住職の判断のつかない時に、時として使います。
- ・時として吉凶はあるものと信じていますので参拝者が現代風な内容のものですが、引くことにより喜んだり、気を引きしめて過ごし少しでもよりよい人生を歩んでもらいたいのです。
- ・人間は弱いもの何か一つ二つの気になる所はある。その時の努力目標とできれば良いと思っています。
- ・その人の次なるものを示すものであり、その内容をもって何かしら感じていただき次なる人生につなげてほしいですね。
- ・基本的に吉凶を占うものではなく、何事か迷っている場合におみくじを引いて心を決めてもらう。
- ・お告げとして受けとめ、自身をふりかえり明日への自

分を考える内容のものだったらどんどん導入すべきだ
と思う。

- ・良いことだと思います。本人に勇気を与えるものが多い
と思います。
- ・お参りされる方が、心を整理する、あるいは、考えを
切りかえる、あるいは自分をふりかえる（みつめなお
す）きっかけになるものだと思います。
- ・おみくじと本来的な仏教は、ほぼ関係がないと考える
が日本の仏教はそれを受容してきたのであろう。いわ
ゆる「神のおつけ」というものを仏に置き換えたので
あろうと思う。古い時代からの人々の要望でもあろう
か。人々がおみくじによって少しでも楽しめる、人生
の指針となるということであれば、それはそれで素晴
らしいことでしょう。
- ・心理状況を転換するきっかけになればよい。
- ・よりよく生きるための指針となれば何よりだと考えます。
- ・吉凶をうらなうも良い、今年の運勢・生活一般の心得・
注意される点を見直されて日々の生活に明るい希望と
意欲がもたらされることを望む。
- ・おみくじは人の人生を左右する（判断）ものゆえ、む
やみに引くものではない。
- ・おみくじを引く方は比較的若い年齢層の者で悩みの多
いことが反映されていると思われる。元来は信仰心厚
く困難なことや決断を迫られた時新しい進路を決める
時等々に熟慮の上で佛様にお指図を受けるということ
で昔の天台宗の寺院ではお経を称えておみくじを引き
人生相談として色々のことの悩みに対応していた。

●「心のよりどころ」「頼り」(12)

- ・自分の力でどうする事もできない事については、神仏
の力に頼りたいという思いでおみくじを用いられるの
は一つの方法だと思います。
- ・東日本大震災で特に当地主は放射能汚染風評被害等で
民衆の心のやすらぎがありません。不安な心のささえ
になれば「おみくじ」なども心の支えになるかと思っ
ております。
- ・人それぞれの心の寄所でもよろしいのでは。
- ・安易に引くのではなくきちんと受ければ人生のかてに
なるものと思います。
- ・明日への希望の糧として凶を吉へと転ずる様お話をし

ています。

- ・心の支えとなるものと思います。
- ・人は弱いので、何かに背中を押してもらいたい時があ
る。例えばおみくじはその一つかもしれません。
- ・この混沌とした現代社会において、おみくじをひかれ
た方が少しでも心の安寧をお持ちいただけたらと存じ
ます。
- ・一つの世も古に抛り所を求める人々は必ずおられます。
必要と考えます（喜も有、憂も有）。
- ・おみくじがこれからも残ってゆくことを願っていま
す。参拝者にとって「おみくじを引く」という行為が、
何かのきっかけを求めていると思います。「吉」なら
さらに活動的に、「凶」なら、そこから出発に、だ
れかに（仏さまに）背中を押してもらうことを求めて
いると思うからです。
- ・人の幸福を希求する思いはこの世に人が存在する限り
不変の意識と存じます。
- ・寺院や神社にお参りされる人々の心のよりどころに
なっていることは確かだと感じます。
- ・人は悩み、苦しみは、常につきものです。強い意志を
もって進むことのできる人であっても不安になる時は
あります。そういう時に、何か「たよる」時とすれば
おみくじやおいのりに「つながる」と思います。ただ、
それがすべてになれば、おかしくなるので、自分の心
と常には、誰か（何か）にたよるのも良いと思います。

●寺院と信者との関わり (16)

- ・お参りこられる方の現在の運氣、気をつける事などを
みくじを通しておしはかり、用事に悩み事以外の事でも
仏教を通じての考え方にて法話をし、信者さんたち
との親しみを持つ。
- ・おみくじというものは比叡山横川元三大師が発祥であ
ります。天台僧として当然関心を持つべきでありま
しょう。おみくじによって人は希望、安心、不安を感じ
るのは日本民族のほほえましい習慣であります。人が
人とのコミュニケーションの希薄になった現代で
は、私は参拝者のよき相談者となって共に悩み、勇気
づけるという対話の方法を選択しております。
おみくじによって檀信徒の気持ちに少しでも幸せな気
持ちになればと考えています。

- ・物事に迷った時、決めかねた時は必ずおみくじによって助かって来たので信者さんにも御相談等必ずおみくじで安心して載せて居ります。
- ・信者と寺とを結びつける一つの方便として今後考えたいと思っています。
- ・寺院と参拝者との親交が深まりおみくじには大切な役割があると考えます。
- ・昭和初期（戦前）は、おみくじの吉凶によって仕事を選び多くの方がそれによって大成功をした人もいと聞いております。私は、神さま仏さんがあなたに与えてくださった吉凶と云うその心を大事にしたいと思っています。
- ・将来を予見出来たらというのは人間の根源的な欲望であると思う。手相占い、星占い、九星占い等はそれに答えるものであろう。その解答を起爆剤としてファイトを炎やすことは悪い事ではない。しかしその解答からある方向に導き商売をしようとたくらめば悪となる。おみくじはその背後に「信仰心」というものを期待する。佛の導きを得ながら困難を乗り越えるというのが本来のあり方であろう。
- ・参拝者がただ合掌だけでなく、お詣りに参加信仰したことを印象づけるため。
- ・当山では占星術などの占いも信仰の入り口としてやっておりますが、昨今のおみくじも占いの一つとして考えている方が多いように見受けられます。その様な中で本義に従って観音経やご真言を唱えさせることによって、神意としてのみくじを観音様のご信託の意味をもって引いていただいております。当山では滅多なことでみくじを引く方はいらっしゃいません。
- ・一つの宗教的なお守りと思います。

●「縁」(11)

- ・仏と人との縁を結ぶ上でおみくじを引いて感ずるもの。
- ・吉凶を占うというより、くじとの出会いに良くて縁を考えさせられる。
- ・みくじを通して、寺もしくは、仏教の教えを解く、1つの縁として、その人一人一人が努力精進し、日々の生活精神の向上をめざしてもらいたい。
- ・寺院におけるおみくじは神意を占う当て物的な物ではなく、引く人間の千差万別の状況に及び心の状態と出

たくじの順列組み合わせを縁として、よりよく生きる仏縁を培うための1つの方便だと考えます。

- ・みくじは一つの出会いのメッセージとも。
- ・一般の方々に、お寺との関係・ご縁を、少しでも深めていただくきっかけになれば、と思います。
- ・おみくじは、参拝者、特に若い人たちがお参りを済ませ、今日の占いの関心から求められる人が多いようです。私としては結ぶも結構ですが、縁を頂いたですから、何度か読み返すことも良いのではと考えます。
- ・仏様との縁結びと考えている。仏のみちびきを大切にしてくださいと話している。
- ・正直、私個人も神社でのおみくじに一喜一憂しております。その、みくじを選ぶのも“縁”ですので吉なら吉で素直に喜び凶なら凶でその神社又はお寺の神仏が災いを取って頂けると信徒には伝えております。
- ・自分の未来の吉凶を、自らの手で「引く」という行為のみによって占うのが「おみくじ」です。当る、当たらないというより、その人の求める必要な言葉、ご縁のある言葉がそこには記されていると思います。良ければ未来への希望に、悪ければ心の訓として、心の杖にして頂ければと思います。

●「戒め」(6)

- ・神仏からのメッセージとして、くじを引き、今現在の自分の運勢を示してもらおうこと、今ある自分を認識させることが大事で大吉、小吉、大凶等の内容で今の行動が戒められるものと考えます。
- ・自分への「いましめ」と考えて頂くようにしております。
- ・真摯な祈りに対する神仏よりの託宣ですので、しっかりお参りをしてもらいたい、また敬虔に受け止めて日々の生活の戒めとして頂きたいです。
- ・自分への戒めとして引いて戴き、もし悪い凶が出てそれは今日（凶）だけのことと思ひ、ポジティブに生きる指針としてもらえればいいと思います。
- ・おみくじは、方便であり、身を慎む等のものです。ですから、例えば「大吉」でも、戒めの文面があります。また、おだやかに信仰に導くように作られており、仮に恐怖で縛るようなものが存在するなら、それは正しいおみくじとは云えません。

● 仏の意思 (6)

- ・単なる吉凶かも知れませんが佛様の暗示とっておりますのでおろそかには出来ません。
- ・目に見えない世界が存在することは、確かなことと認識しています。すべてが含意のもとで展開され、必然です。みくじの導きにも神仏の意思が働いていると考えます。
- ・おみくじと本来的な仏教は、ほぼ関係がないと考えるが日本の仏教はそれを受容してきたのであろう。いわゆる「神のおつけ」というものを仏に置き換えたのであろうと思う。古い時代からの人々の要望でもあろうか。人々がおみくじによって少しでも楽しめる、人生の指針となるということであれば、それはそれで素晴らしいことでしょう。
- ・神仏よりのおさとしを受ける手段としてありがたいものだと考えております。しかしこのことは私よりお参りの方が強くそのように思っているようです。
- ・アットランダムに引かれるみくじに仏の意志を聞く。また自らの状況を客観的に観る方便と考えています。
- ・おみくじは単なる占いではなく、仏の力をいただけるものと考えています。おみくじは理源大師聖宝が考案したもの聞いています。仏智を人が得やすくするためのものだと思っております。

● 「楽しみ」としてのおみくじ (17)

- ・参詣のついでに心のあそびとしてたいへん優雅な日本のおしるしだと思います。
- ・参拝寺の一寸した楽しみのなものとしてとらえている。
- ・楽しむ「遊び」としては、良いと思います。
- ・根拠のないもので迷信。遊び感覚で見られれば、それも人生かなという程度のもの。
- ・何かこだわりがあるわけではないのですが、おみくじをひいて一喜一憂している参拝客の方を見ていると、コミュニケーションツールとして機能しているのかなと思います。
- ・世の中には、おみくじを引くのが好きな人がいるから、楽しみ半分で愛好家は引いて行ったら良いと思っている。
- ・入山料を要する寺院が多いせちがらい世の中で、若者は入山料を払ってまで寺院に参拝しません。百円で

きるささやかな楽しみを味わってもらうためこれからもおみくじはおいておこうと思っております。

- ・気楽な気持ちで参詣者が引いて喜んでもらえればと思っています。
- ・参拝者の方が楽しんでいただけるものと考えております。生活や人生のヒント・アドバイスとしてとらえていただければと思っております。
- ・庶民の娯楽的感覚として現在のおみくじは有ると思います、安心（アンジン）を求める方便としての役割は果たしていると思います。
- ・古いを信じない方には無意味な行為でしょうが、運試しにおみくじを引く方も結構いるのではないのでしょうか。吉が出れば素直に喜び凶が出れば身を慎めばいいだけのことでおみくじを引く行為に対して、迷信だとか、非科学的だとか殊更に論じる必要はないと思います。
- ・拙寺は年間を通じて山系の人も少なくおみくじを置いて利用される人はほとんど予想されない。おみくじの吉凶についてはあまり重要視しないで楽しみとして利用するのがよいと思う。
- ・昔は世の中の行く末を占う重要な儀式であったと思います。今では幼い子供からお年寄りまで仏教や寺を身近に感じていただくための一つのアイテムとして利用されている御寺院も多いかと思えます。

● 日本文化としての価値 (8)

- ・「おみくじ」は日本の伝統的な文化であり、貴重歴史的な資料と言えらると思っております。
- ・特におみくじに関する意見ではありませんが現在に受け継がれていることは、日本人の生活に必要とされるからであって、民族、伝統、文化すなわち日本人の心に響くものと考えます。
- ・寺院仏閣に対して好感をもち、心が清められ、やすらかな人生を一步一步積み重ねることができる、普遍性のある、日本の文化の重要性と意義をよく理解できる。
- ・歴史のある寺院には、しかるべきものがあり、これからも続けて行かれることが望ましいと考えています。
- ・その寺の伝統として実施されているところは継続してほしい。
- ・おみくじも日本精神文化の様相の一つです。しかし真

摯な祈りを使わずに、娯楽性が強調されすぎるのが今日の目的か。伝統あるものに再び光をあてることは、未来への正しい進み方と知るべきです。

- ・「おみくじ」自体は、日本古来からのすばらしい文化だと思います。
- ・目には見えないもの、心に祈る姿は自然のことなので我が国に残る日本人の心の姿と思います。

以上は、寺院におけるおみくじに対する積極的な意義についての考えが述べられたものである。「人生の指針」、「心のよりどころ」、「戒め」といった強い意義を持つという考えから、仏、寺院と人びとを結ぶ機能を見出す見解、そして「楽しみ」としての利用や、「日本文化」としての意義などが語られている。もっとも、以下のようなおみくじに対して否定的な考えも示されている点にも注意しておきたい。

●本来の信仰ではない (16)

- ・罪のない範囲で安価なものであれば、どこの寺院であれおみくじを置く事はかまわないと考えます。年始の運だめしや恋占レベルのものであるならば、本格的な信仰とは全く別次元のものにとらえるべきでしょう。なお、本寺ではおみくじを置く意向は全くありません。
- ・現在おみくじといえば簡単な運だめしとしか扱われていないように思われます。吉凶で一喜一憂するのが現実でしょう。確かにその程度のみくじも存在しますし世の中がそれ以上を求めているのかもしれませんが。ただ元三大師みくじの如きものがその本質を失っているのには残念な気がします。しかしみくじを行動指針とするようなことは、一般には受け入れ難いでしょう。観音籤に限っては元三大師信仰の上に成り立っていたのかもしれませんが。
- ・おみくじの自動販売機を設置している社寺がありますが、とても残念です。本来祈願祈祷をして運勢を頂くものと考えています。
- ・寺院としての考えなし。(私の考え) おみくじ、反対です。仏教はそんなこと考えていませんでした。当たりはずれ、心決まるもの、占い。むしろ因果関係で物事を考えていました。占い等全く賛成しかねます。
- ・釈尊本来の思考に反する故取扱わない。
- ・おみくじは、本来、祈願など何らかの目的を持って引

く物であるが、残念なことに現代ではその意味合いが崩れ、ただ漫然と「引いてみる」ことが増えているようである。その原因として次のようなことが考えられる。

- ・本来みくじは横川元三大師堂で行われている方法で僧がひくものであって現代風にアレンジされていく風潮に疑問を抱く。
- ・今はある種のファッション化してしまい、本来の意味が忘れられていると思う。自分で引いて大吉とか小吉だけを見て後は木の枝か、結び棒に結んでいく。もともとは神仏の判断をたより、アドバイスを僧侶から受けるという真剣なものであった。前紀元三大師堂では、今もこのような方法がおこなわれている。・当寺でも数十年前までは縁日の日だけであるが、参拝者の依頼を受けて実際にみくじを引くのは子供達であった。本人が引くと、そこに何らかの「はからい」が働くための神仏の意志が伝わらないと考えたからだと思う。巫女や小鳥がみくじを引くのも同じ意味であろう。人々は文句をよく読んで場合によっては僧侶に相談していたものである。・とはいうものの現在は、当寺でも多くの人々に対応できず、自由に引いてもらっているのが現状である。
- ・一般的には人気があるようですが、仏の教とは合わないと思われま。単なる吉凶ではなく、漢詩の意味が大事であると、以前教えて頂いた覚えがあります。
- ・遊び半分で引く事なき様に。
- ・吉凶を占う方式は、新党、道教系の発想であり、真言宗では「幸を願い」「すべてに感謝する」試行を致します。天体からくる暦に基づいた宿曜経は陰陽道とは全く別のとらえ方をしている筈です。
- ・仏教として「おみくじ」はありえない。

●おみくじで判断してはならない (8)

- ・個人的にはおみくじでその状況を判断することには賛同しかねます。
- ・神託であれ、予言であれ、オミクジであれ、それを自分がどう解釈して、自分の行動に生かすか、という主体的な理解をしなければならず、あくまでも方便の一に過ぎないという。暗黙の了解が失われれば、役に立たない物である。

- ・参考にする程度ならよいと思いますが、あまりにも信じ過ぎるのは大変恐ろしい気が致します。
- ・おみくじはあくまでもおみくじである。気にする必要はない。引く必要があるのかとたまに思う。

5. まとめにかえて

本稿は、2021年に発見された大野出氏の寺院におけるおみくじ調査データについて、自由回答の分類を行ったものである。そのため、調査研究の中間報告の域を出てはいない。これは、あくまでもデータの公表を最優先課題として、調査データの概要と基本的な分析の提示を行ったためである。その内容にかかわる詳細な分析、神社データとの比較、そしておみくじのもつ現代的な意義の分析については、今後の課題としたい。

謝 辞

調査にご協力いただきました寺院のみなさまには、記して深く感謝申し上げます。

付 記

本研究は、科研費「日本における霊籤・御籤・神籤をめぐる思想史的展開に関する総合的研究」(研究代表者:大野出)、「社会調査法に基づく寺社における御籤・神籤に関する思想史研究を中心とした総合的研究」(研究代表者:大野出)、および、2021年度愛知県立大学「地域コミュニティにおける高齢者の介護予防・孤立防止を目的としたニューノーマルな時代の『遊び』開発プロジェクト」(研究代表者:奥田隆史)による研究成果の一部である。

注

- 1) 大野氏の研究業績については、『愛知県立大学日本文化学部論集』第10号(2018年、「大野出先生追悼記念号」)で特集が組まれている。

- 2) ちなみに、この神社は、島(1995)でも取り上げられている、おみくじに関して伝統と特色を持つ神社である。
- 3) 世代別に見ていくと、注目すべき傾向が見られる。2018年調査で60歳以上の高年層では14%であるのに対して、30～59歳の中年層では32%、16～29歳の若年層では44%と、若年層の「おみくじ・占い」経験の相対的な高さが明らかになっている(NHK放送文化研究所編, 2020:138-9)。山田真茂留はこのデータを用いて、日本の神道、仏教のもつ特質を見出している(山田, 2021)。関連して、東京都23区内での意識調査においても、「社寺のおみくじ購入」を「たいていする」が14.4%、「たまにする」が40.6%と合わせて半数を超えていた。「社寺のおみくじ内容」を気にする度合いについて、「気になる」が6.9%、「どちらかといえば気になる」が37.0%となっており、ジェンダー差では、どちらも女性の方が男性よりも高く、世代別では若年層ほど高い比率となっている(下村, 2010)。
- 4) 詳細については、松宮・大野(2009)を参照いただきたい。
- 5) 調査票については、松宮・大野(2009)に掲載している。また、本調査データの入力・集計・分類の作業では、愛知県立大学教育福祉学部社会福学科の学部生、福井亜弥氏、野呂葉月氏、駒澤果奈氏にご尽力いただいた。記して感謝したい。
- 6) 郵送時のリストが残っていなかったため、質問紙調査の送付数は不明である。

文 献

- 荒川敏彦, 2021, 「不変のなかの緊張」『千葉商大紀要』58(3): 1-14.
- NHK放送文化研究所編, 2020, 『現代日本人の意識構造[第九版]』日本放送出版協会.
- 島武史, 1995, 『日本おみくじ紀行』日本経済新聞社.
- 島武史, 1999, 『かながわおもしろおみくじ散歩』神奈川新聞社.
- 下村育世, 2010, 『『占いブーム』の現在』竹内郁郎・宇都宮京子編著『呪術意識と現代社会』青弓社.
- 神社本庁教学研究所監修, 2004, 『神道いろは』神社新報社.
- 福沢将樹編著, 2008, 『『未来』をめぐる学際的研究』平成19年度愛知県立大学学長特別研究費報告書.
- 松宮朝, 2008, 『『未来』をめぐる若者の社会意識調査中間報告』, 福沢編著所収.
- 松宮朝・大野出, 2009, 「占い・おみくじをめぐる学際的研究」『愛知県立大学文学部論集(社会福祉学科編)』57: 99-115.
- 大野出, 2004, 『江戸の占い』河出書房新社.
- 大野出, 2009, 『元三大師御籤本の研究』思文閣出版.
- 大野出, 2012, 『神さまが嫌う最悪参拝 仏さまが喜ぶ最良参拝』講談社.
- 鍋木麻矢, 2017, 『ニッポンのおみくじ』グラフィック.
- 山田真茂留, 2021, 「神道と仏教は日本人のふるさとか?」友枝敏雄ほか編『いまを生きるための社会学』丸善出版.